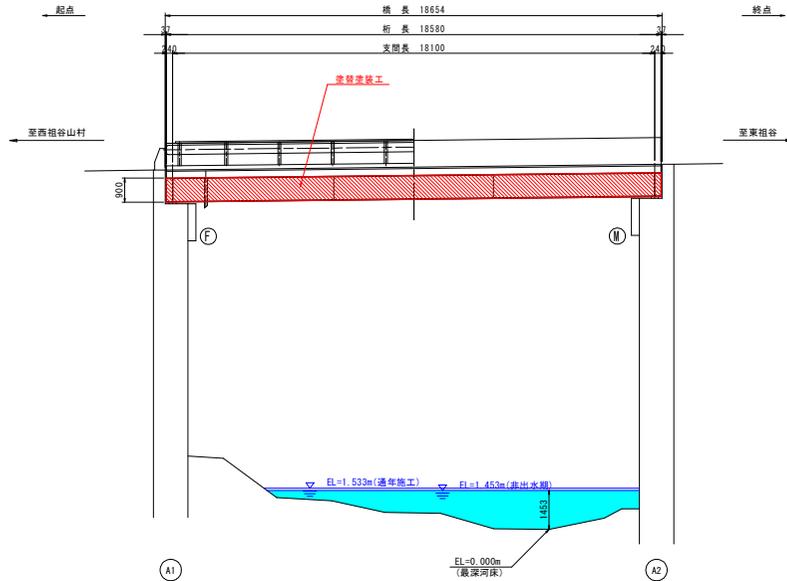


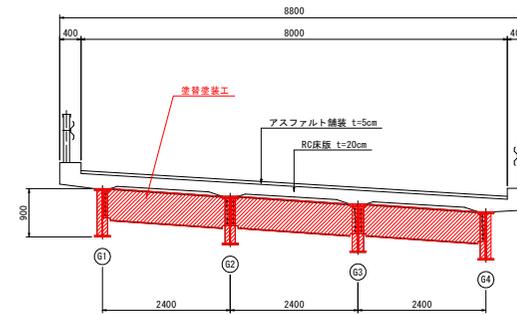
補修工一般図 (1)

側面図 S=1:100

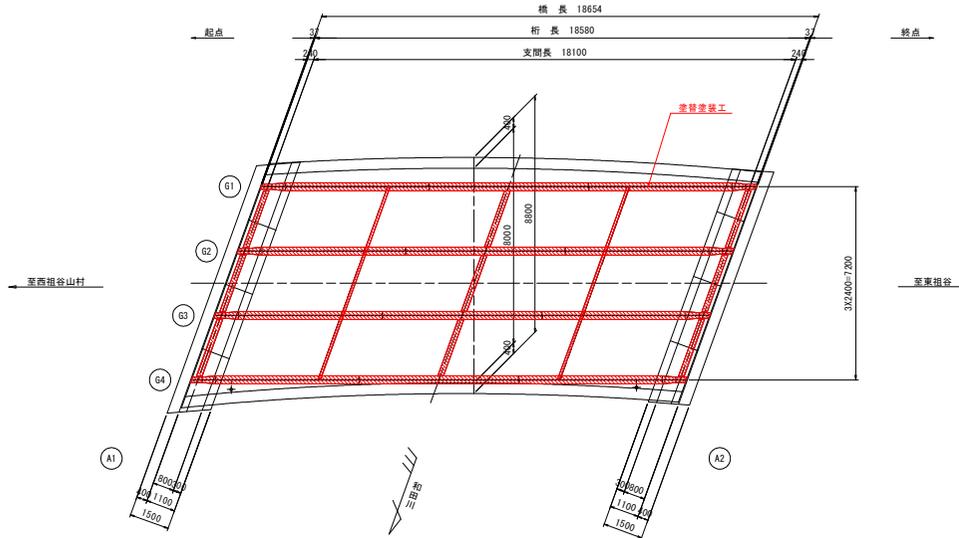


※測量が実施されていないため、本断面図の最深河床をEL=0.000mとして施工時水位を設定

断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



橋梁諸元

路線名	主要地方道 山城東祖谷山線	
設計荷重	T-20	
橋長	18,654m	
桁長	18,580m	
支間長	18,100m	
斜角	$\theta=70^{\circ}00'$	
幅員	有効幅員	車道 8,000m
	全幅	8,800m
横断勾配	5.612~5.938%	
形式	上部工	単純非合成桁橋
	A1橋台	逆T式橋台
	A2橋台	逆T式橋台
架設年次	1978年(昭和53年)7月	
設計示方書	道路橋示方書 昭和47年3月	

河川諸元(施工時水位検討条件)

河川名	一級河川吉野川水系和田谷川
管理者	徳島県西部総合県民局<三好>
流域面積	A=4.3km ²
河床勾配	i=1:15.7(6.37%)
流出係数	F=0.80
粗度係数	n=0.04
雨量強度	R=65.5mm/h(過去10年の2位)
土砂含有率	5%
施工時流量	Q=70m ³ /sec
施工時水位	h=1.453m(当該断面にて等流計算により設定)

砂防諸元

砂防指定地	和田谷川
指定種別	砂防指定地
水溪名	吉野川
幹川名	-
派流名	和田谷川
市町村名	三好市
大字	東祖谷山村
小字	和田
庁舎名	三好庁舎
告示年月日	1980/06/07
告示番号	建設1124号
特記事項	-

橋梁補修概要

対象部材	補修対策	備考
鋼部材	塗装塗替工	全面塗替え(Rc-1塗装系)

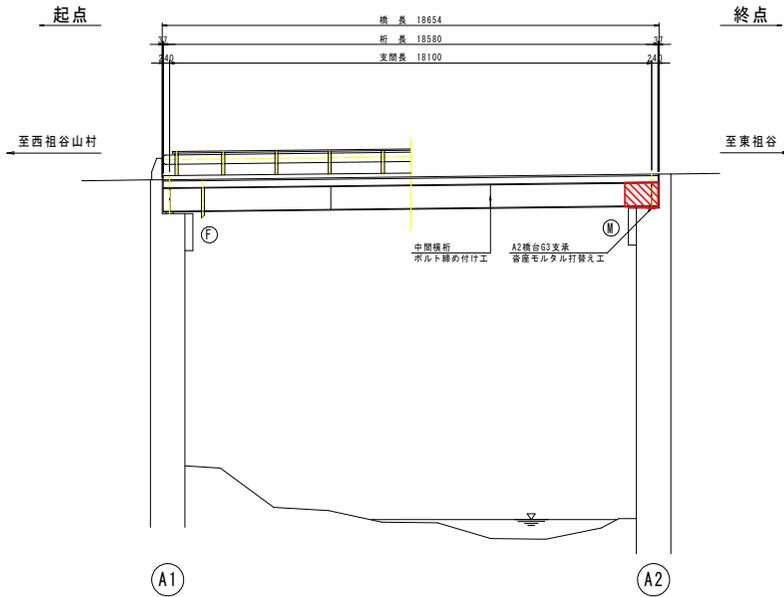
実施設計図面

【新和田橋】	
工事名	R7三土 山城東祖谷山線(新和田橋) 三・東祖谷和田 橋梁塗替工事
路線名等	主要地方道山城東祖谷山線
工事箇所	三好市東祖谷和田(新和田橋)
図面名	補修工一般図(1)
縮尺	図示 図面番号 1/5
会社名	
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<三好>

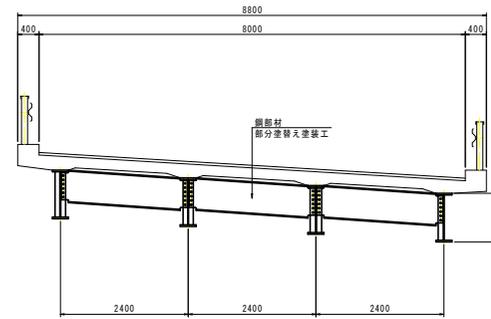
注記
1. 本図面は、「H30三土 国道439号地 三・東祖谷標尾他(原1号橋他) 橋梁修繕設計業務」を基に作成したものである。
2. 施工前は現場にて再度形状確認を行うこと。

補修工一般図 (2)

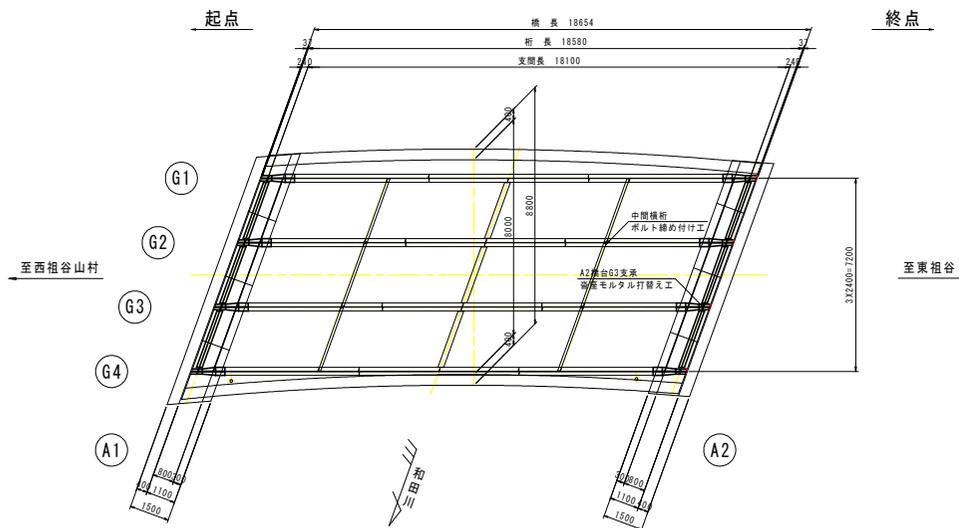
側面図 S=1:100



断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



補修工一覧表

項目	補修工	材料等
鋼部材	ポルト締め付付工	-
	寄座モルタル打替え工	舞收橋モルタル

実施設計図面

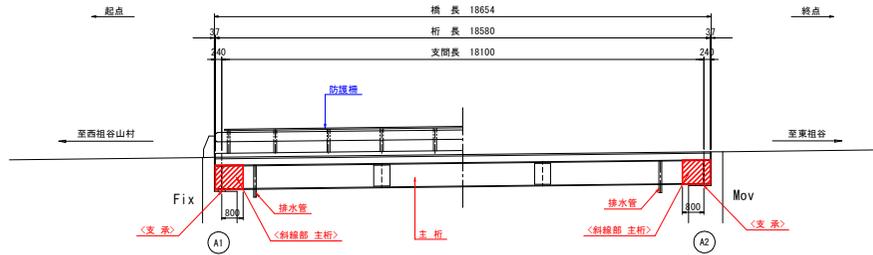
【新和田橋】			
工事名	R7三士 山城東祖谷山線(新和田橋) 三・東祖谷和田 橋梁塗装工事		
路線名等	主要地方道山城東祖谷山線		
工事箇所	三好市東祖谷和田(新和田橋)		
図面名	補修工一般図(2)		
縮尺	図示	図面番号	2/5
会社名	徳島県西部総合県民局県土整備部<三好>		

注)
 ・本図面は、現存図面を基に作図したものである。
 ・施工実施前に現地測定を行い、形状寸法を確認の上、材料発注・加工等に取りかかること。

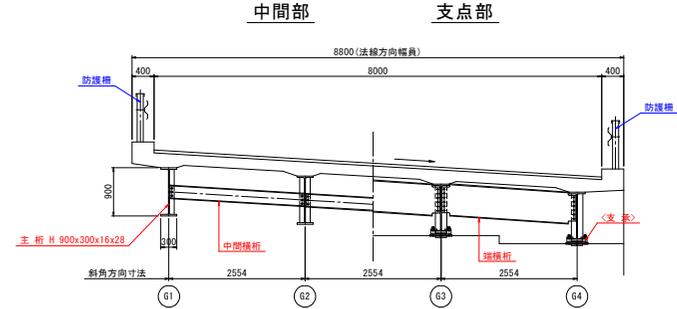
塗替塗装工詳細図(その1)

※ 赤の旗上げ箇所は、塗替え塗装部を示す。
但しく>付き部は、過年度部分塗替え済みの箇所を示す。
※ 青の旗上げ箇所は、非塗装部を示す。

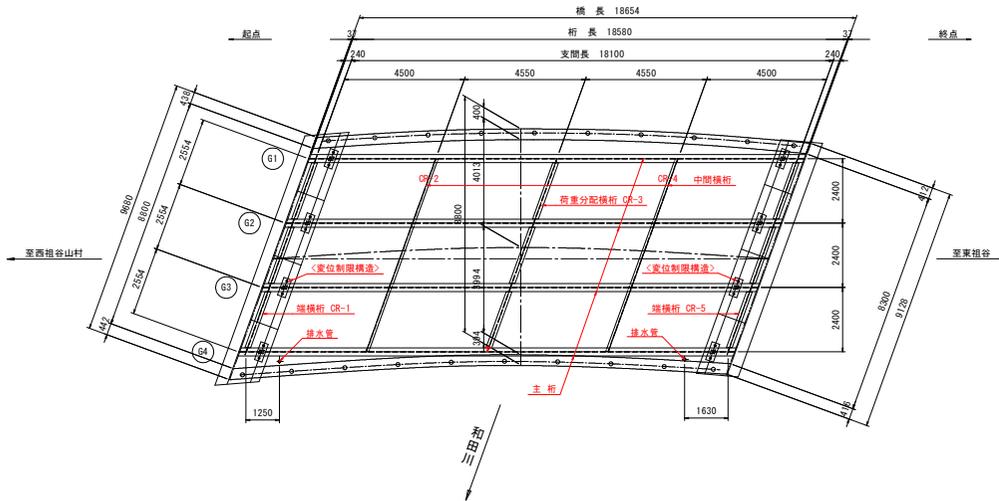
側面図 S=1:100



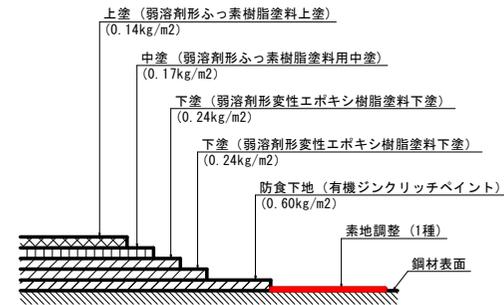
断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



塗替え塗装要領

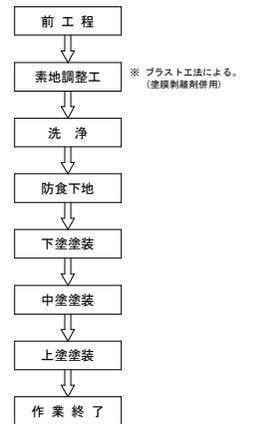


Rc-1 塗装系(スプレー)※1

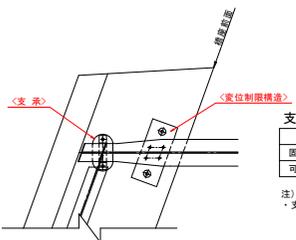
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種 ※3		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日 ※2
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日~10日

※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除錆度はISO Sa 2 1/2とする。

塗替え塗装工フロー図



支点部詳細図 S=1:30 (N=8箇所)



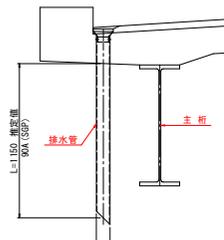
支承 (N=各4基)

支承塗装面積表 (1基当り)

単位	数量
固定支承(A1橋台側)	m ² 0.27
可動支承(A2橋台側)	m ² 0.25

注) 支承の塗装面積は、道路橋支承標準設計からの推定値である。

排水管 S=1:20 (N=2箇所)



実施設計図面

【新和田橋】	
工事名	R7三土 山城東祖谷山線(新和田橋) 三・東祖谷和田 橋梁塗装工事
路線名等	主要地方道山城東祖谷山線
工事箇所	三好市東祖谷和田(新和田橋)
図面名	塗替塗装工詳細図(その1)
縮尺	図示 図面番号 3/5
会社名	
事業者名	徳島県西部総合県民局土整備部<三好

注記

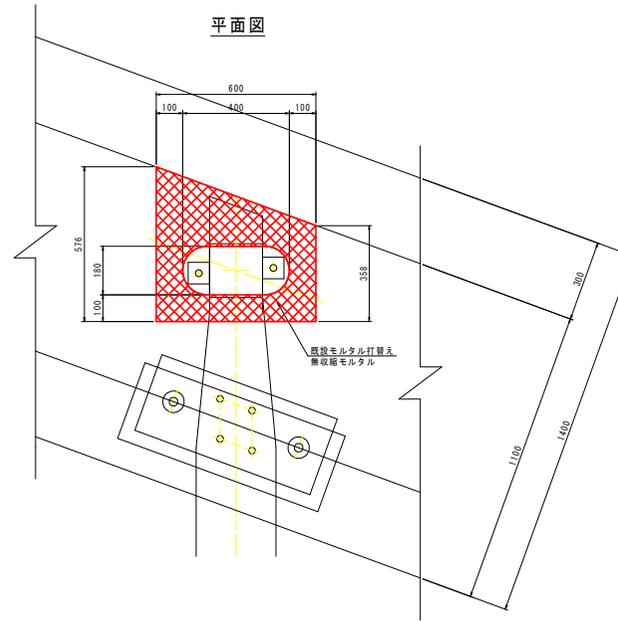
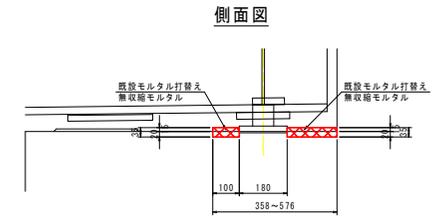
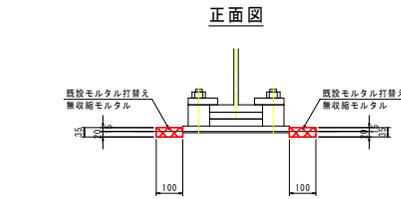
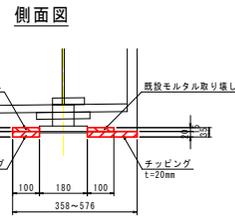
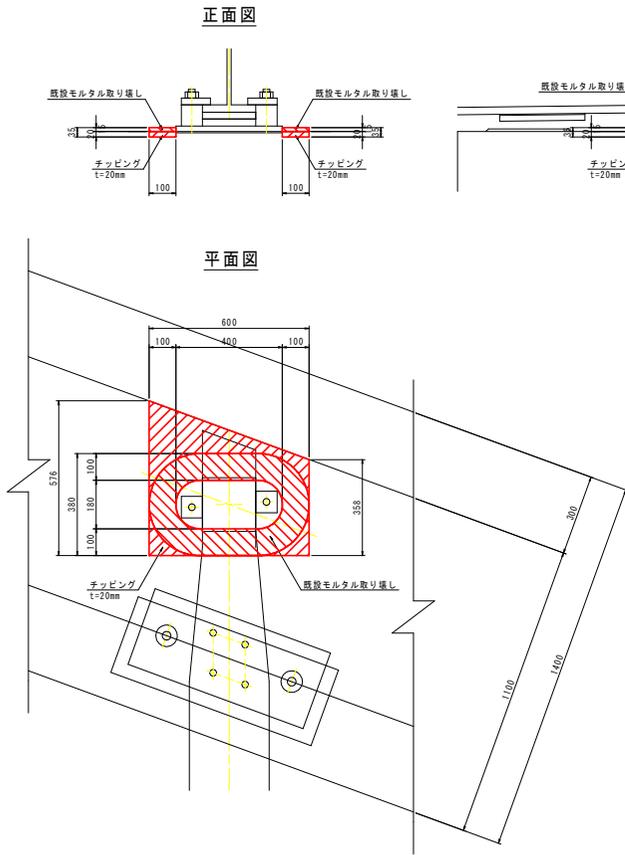
- 既設構造物寸法・形状は、工事に先立ち再計測・再確認を必ず実施し工事に反映すること。
- 塗装仕様は、Rc-1塗装系を基本とする。
- 施工前に腐食面の発生を確認し、適宜調整を行うこと。
- 塗装施工の際は飛散防止に留意すること。
- 端横桁、支承部および溶接位置については既成成果"塗装面積算出図"を参照すること。
- 実地調査作業時に、断面減少及び乳食が生じた場合には金属ノリ(エポキシ系)にて断面整形を行ったのち塗装を施工すること。
- 過年度に実施された塗膜調査結果より、既存塗膜内に鉛およびPCBが基準値以上含有しているため、既存塗膜の剥離は塗膜剥離剤を使用すること。また、作業員は化学防護服、呼吸用保護具等の着用を行うこと。
- 設計段階では塗膜剥離剤の塗布回数2回としているが、施工前に剥離試験を行い、適切な塗布回数を確認すること。
- 主桁端部(塗膜厚にRc-1)で塗替が実施されている。Rc-1で再塗装を実施するか否か(取り扱い)について、施工時に発注者と協議により決定すること。

沓座モルタル補修工詳細図

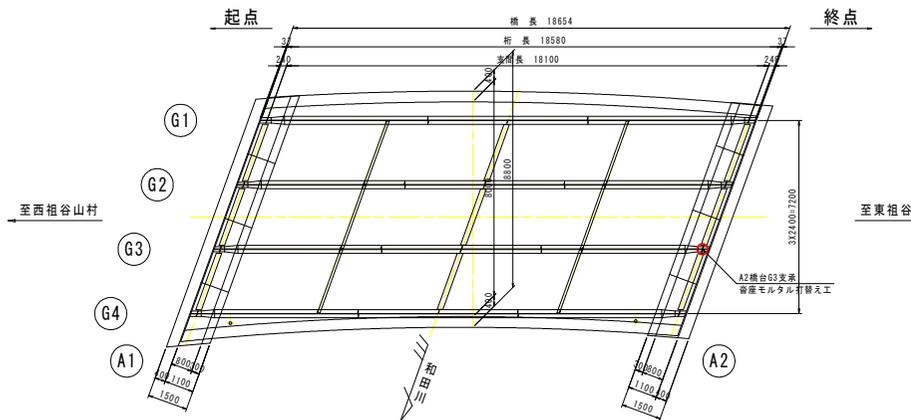
沓座モルタル打替え工 S=1:10
(N=1箇所)

取り壊し

打替え



マーク図 S=1:100



注)
・ 既存沓座モルタルの大きさを600x380x15と推定。
・ 既存モルタルは、支梁の両面は全て打替えるものとし、支梁直下の継手部は打替えない。
・ 状況に応じて仮突等を行い、桁の沈下を防ぐこと。

注)
・ 本図面は、現存図面を基に作図したものである。
・ 施工実施前に現地測定を行い、形状寸法を確認の上、材料発注・加工等に取りかかること。

実施設計図面

【新和田橋】			
工事名	R7三士 山城東祖谷山線(新和田橋) 三・東祖谷和田 橋梁架設工事		
路線名等	主要地方道山城東祖谷山線		
工事箇所	三好市東祖谷和田(新和田橋)		
図面名	沓座モルタル補修工事詳細図		
縮尺	図示	図面番号	5/5
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局県土整備部<三好>		